

北東アジア動向分析

北東アジア概況

北東アジア各国（北朝鮮を除く）の2000年の主要経済統計が出揃った。以下では各国経済の状況を、GDP、インフレ率、貿易収支の三つの主要指標から概観する。

実質経済成長率（GDP）

中国は各国の中で最も安定した高成長を記録している。98、99の両年は7%台にとどまったが、2000年は8.0%の成長を達成している。

ロシアは長らく低迷してきたが、99年からはっきりとプラス成長に転じ、2000年には8.3%の高成長を達成している。

モンゴルは2～4%の成長を持続してきたが、2000年は天候の影響を受け、0.5%にとどまった。

韓国は97年の通貨危機で、98年には大幅なマイナス成長となったが、99年には10.9%、2000年は8.8%と急速な回復を見せた。

インフレ率（消費者物価）

中国の物価は比較的安定している。景気の低迷した98、99の両年に物価の下落を見たが、2000年は0.4%となっている。

ロシアではインフレが持続している。経済状況が好転し始め

た2000年においても20.2%と高いインフレ率を記録している。

モンゴルも高いインフレに見舞われてきたが、99年以降は比較的安定傾向にあり、2000年は8.1%となっている。

韓国はアジアNIESの中ではインフレ体質の経済であった。通貨危機による輸入物価の上昇で、98年には7.5%の物価上昇を記録したが、その後沈静化し、2000年も2.3%にとどまっている。

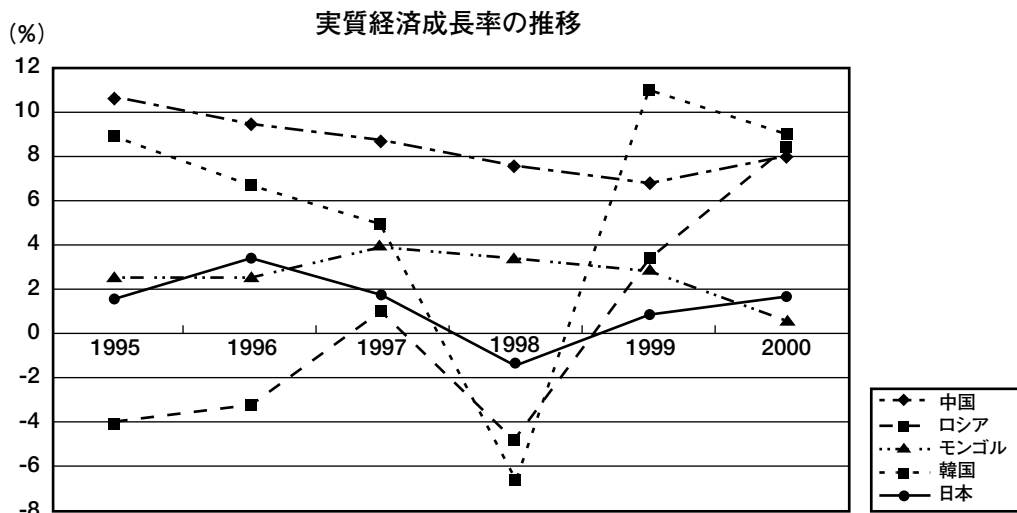
貿易収支

中国は輸出の急増した97、98の両年に400億ドルを上回る黒字を記録したが、その後輸入の増加により黒字幅は減少し、2000年には241億ドルとなっている。

ロシアは99年以降、輸出の拡大と輸入の低迷によって黒字幅が拡大しており、2000年には609億ドルに達した。外需はロシア経済の回復を支えるエンジンとなっている。

韓国は貿易収支が赤字基調の経済であったが、通貨危機後のウォンの下落と、内需の冷え込みによって98年には416億ドルの黒字となった。その後、黒字幅は減少してきたが、2000年においても166億ドルの黒字となっている。

(ERINA調査研究部研究主任 中島朋義)



インフレ率の推移（消費者物価）

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
中国	17.1	8.3	2.8	▲0.8	▲1.4	0.4
ロシア	131.3	21.8	11.0	84.4	36.5	20.2
モンゴル	53.1	44.6	20.5	6.0	10.0	8.1
韓国	4.5	4.9	4.5	7.5	0.8	2.3
日本	▲0.1	0.1	0.1	0.6	▲0.3	▲0.7

貿易収支

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
中国	16,700	12,220	40,420	43,570	29,230	24,100
ロシア	20,310	22,471	17,025	16,869	36,155	60,943
モンゴル	58	▲27	▲17	▲158	▲155	▲142
韓国	▲4,444	▲14,965	▲3,179	41,627	28,371	16,601
日本	131,790	83,560	101,600	122,390	123,320	116,580